



号外



不断念佛相続十九萬日大法会  
聖徳太子千四百年御遠忌  
傳教大師千二百年御遠忌

令和四年十一月二日より八日まで厳修  
天台真盛宗総本山 西教寺

大津市坂本五十二  
電話〇七七五七八〇〇一三

### 不断念佛相続十九萬日大法会 延期に対するお詫びとお願いのしついで

本年十一月二日から八日まで総本山西教寺に於いて不断念佛相続十九萬日大法会を厳修する予定でしたが、昨年二月から全世界に蔓延感染している新型コロナウイルス感染症の為に、去る三月十六日に天台真盛宗臨時宗議会を開会しやむなく一年延期することに決定しました。

今日まで御願い致しておりました各宗縁故寺院、門末寺院、檀信徒各位には深くお詫びを申し上げる次第です。

未だかつて私たちが経験したことがない新型コロナウイルスの感染で生活が一変し、苦境に糾かかれています。そして多くの方々がお亡くなり、世界では何千万人という方々が感染症にかかられておられます。すことを思いますと、毎日が不安でいっぱいであります。

既に本山では、平成二十八年（二〇一六）十二月通常宗議会で平成三十三年乃ち令和三年（二〇二二）十一月二日から八日まで法会を厳修することを決定していたしました。大法会厳修に当たり各寺院には特別宗費賦課金、特別寄付金等を御願いしていただきました。今日までこの御浄財にご協力を頂き有り難く御礼申し上げます。お陰様で計画しております記念事業、法要次第等は順調に計画実行してまいりました。先にも述べましたように一昨年の十二月に中国の武漢市で発症しました新型コロナウイルスが全世界に蔓延、また変異ウイルスが発症しております。その為にマスクの着用、手洗い、検温、消毒等を徹底し、密集・密接・密閉の三密を避け、イベント・集會行事等の中止、人混みの多い外出は極力控えるよう、また食事を伴う會合や會議、そして遠方の旅は避けるとの国の方から指示が出ております。



宗務総長  
前 阪 良 憲

そういう中で不断念佛相続十九萬日大法会を執行して無参拝、もしくは、参詣者を密にならないように参詣者を制限することは私としては考えられませんが、より多くの檀信徒が安全・安心で参詣していただくことが宗祖真盛上人の御念仏の教えであり相続念仏であります。

あらゆる感染対策をとつてもいつどこで発症するかわかりません。

いろいろ考えますと、本年秋までに新型コロナウイルスが終息するとは考えられませんし、またワクチンが全国民に行き渡ることまだまだ日数がかかることと思うと、本年十一月に法会を勤め、多くの檀信徒の参拝を迎え入れることが果たして適切かどうか、安全・安心でより多く参詣していただく為に思い切つて一年延期しては、と考えた次第です。

内局としては断腸の思いで一年延期し令和四年十一月二日から八日までの七日間の厳修と致しました。御寄付を頂いた方々、参拝の計画をたてて頂いた方には大変ご迷惑をお掛けし深くお詫び申し上げます。何卒御理解を宜しく御願い致します。令和四年の十九萬日大法会には檀信徒の方々が安全・安心で御参詣が出来ることを祈りつつお待ちしております。更に宗祖真盛上人の念仏のご加護によって一日でも早く終息し、社会・家庭生活が元通りに取り戻せるようお祈りする次第です。

最後にまん延防止対策・第四波感染変異型ウイルスの拡大感染で緊急事態宣言が発出されております。疫病退散をお祈りしてお詫びと御願いとさせていただきます。

合 掌



# 『念仏三昧の一年』運動の実施方策

## ―十九萬日法要の延期を前向きに活かすために―

### 1. 趣旨

不断念佛十九萬日法要は一年間延期されることになりましたが、そのことにあたって、管長猥下は「この一年延期という事態を禍と受け止めるのではなく、転機ととらえて福となすようにしなければなりません。その為に、これからの一年を私たちがどのように過ごすかが重要です。即ち、不断念佛の意義を、今後一層幅広く伝えるようにつとめ、一年後には、よりよい法要として檀信徒の皆さまに幸せを感じていただける、そのような十九萬日法要を迎えたいものです」と述べられました。

このことは、真盛上人が御遺誠に示された「あい構えて無欲清浄にして、よくよく念仏すべし（『真盛上人往生伝記』）」というみ教えに適うものであり、また管長猥下が念仏の得益について説かれた「常に念仏を称えることによつて、一つには諸悪止滅、二つには見仏の因縁、三つには命終時の正念現前、という利益を得ることが出来る（『みちびき』第四号）」というお導きにも沿ったものです。

期間中、本山ではその実現に向けて様々な取り組みを展開するとともに、門末寺院に対してはあらゆる法要の機会をとらえて参詣者ともども称名念仏の場（別時念仏会・ミニ別時念仏）を設けることを促します。そして、その全てを不断念佛十九萬日法要の「お待ち受け法要」と位置づけ、宗門全体として『念仏三昧の一年』を過ごしたうえで、令和四年十一月の十九萬日法要をその集大成として、檀信徒の皆さまをはじめ住職・教師ともども喜びをと

もに迎えることを目指します。

### 2. 主なねらい

- お念仏を称える機会を積極的に設けることを通じて、多くの方々には不断念佛の意義を説くとともに、十九萬日法要への誘いとする。
- ご法語を紹介しつつ、真盛上人のみ教えを説く機会とする。  
※「念仏三昧に入りぬれば、極楽もただちに現じて」（念仏三昧法語）  
「只様も候わず南無阿弥陀仏と唱うるが、即ち往生にて候なり」  
声を出すことを気兼ねする状況下においても、鉦鼓や木魚を打つことにより、コロナ禍における念仏三昧の方法を実践する。  
※「御口に声なくとも、御忘なきばかりが念仏にて候べく候」（奏進法語）

### 3. 主要な取り組み

- 各教区別に寺院代表者による別時念仏会の実施（十一月）
- 本山での四十八日不断念佛会の実施（紅葉時期）
- 門末寺院での別時念仏会、あるいは法要時におけるミニ別時念仏の実施

は法要時におけるミニ別時念仏の実施

- お念仏回数の宗全体での目標設定  
※目標回数 二千二百万回（廿六万 × 三六五日）  
「偏えに一向専修に帰して、毎日六万遍の念仏を申させ給いけり」（円戒国師絵詞伝）
- 「恵心僧都の跡をつぎ、称名日ごとくに六万課」（円戒国師和讃）

### 4. 実施期間

- 周知期間 令和三年七月～十月
- 実施期間 令和三年十一月～令和四年十月

#### 檀信徒の皆さまへお願い

総本山西教寺にご参拝の際は、先にご配布させていただきました「檀信徒用無料拝観券（ご家族五名様まで）」を必ず受付へご提示ください。紛失された方は、本紙（寶珠）をお持ちいただきご提示いただきますよう、お願い申し上げます。

発行所 天台真盛宗教学部

大津市坂本五丁目十三-1

総本山西教寺内

電話 大津 (077) 578-0103 三番代

印刷所 宮川印刷株式会社

大津市富士見台三十八

電話 (077) 533-2241 一番